冠句

柴田遊児
西村吟雪
安居尚文
選

特選

値ぶみする　うれしい重さ朝の市

鳥居本町　滝口　寿美夫

（評）山育ちの田舎者が旅のつれづれにふと立ち寄った海ぞいの朝市、めずらしい魚も並んでいていろいろ勧められたり値切ったり、スーパーで買うより随分得をした感じ、いいお土産になりました、情景が浮かんで来ます。（柴田）

特選

頃も良く　鮒ずし醸す深庇

長浜市　樋口　満智子

（評）湖国を代表する郷土料理。独特の味、臭いは好き嫌いはあります。一年以上丹精を込めた逸品。各々家庭で違いは有ると思います。深い庇は最高に仕上がるのではないでしょうか。近年鮒は不漁つづきですが製法は未来に残しましょう。（西村）

特選

値ぶみする　言葉飛び交う朝の競

肥田町　青木　徳男

（評）爽やかな朝の光景が目に浮かぶ。丹精込めた生産物が運び込まれて、生産者の活気溢るる元気なドラマが生まれるのである。ここから一日が始まり農家の朝が動き出すのである。又、競りの動向が明日への指針となるのである。そこから夢も生まれてくるのである。（安居）

入選

ひらり舞う　美の短命が愛ほしく

新海町　野田　惣次郎

（評）よく聞く言葉ですが今時分作っていて感じました。牡丹の鉢植えでめずらしく今年は絢爛豪華に咲きましたがほんの一、二日で散ってしまって何となく心残りでした。本当に虚しいですね。（柴田）

入選

値ぶみする　手擦れの一書鈍（にび）光る

甲賀市　大原　ふさ子

（評）蔵の隅からいかにも古そうな巻物が見つかって皆それぞれに勝手な値をつけたりして家族の話題に。機会があれば一度鑑定してはいかがですか。（柴田）

入選

ひらり舞う　天女華麗に余呉の湖（うみ）

蒲生郡竜王町　松瀬　竜子

（評）天女伝説は全国各地に有ります。余呉の水面は鏡面の如く四方の山々を神秘に映す。天女も顔を映したのでしょう。不思議な気分に誘われる。伝説とは言えこの環境を大事にしたいと思います。（西村）

入選

値ぶみする　遺品世に出す鑑定士

田附町　大谷　貞三

（評）納戸より煤を被った我楽多が、目利きが効いたご先祖様が残し物、現（うつ）改めて鑑定の結果国宝級だと太鼓判。たかが我楽多されど国宝。一度納戸の内（なか）を見直して、お宝を発見しては如何。（西村）

入選　頃も良く　あまい春風さそわれて

肥田町　森野久子

（評）　長い冬の季節も過ぎて、春を迎え喜びの気持ちが句にあらわれています。この句からは歓喜の姿勢厳しい自然から明るいベールに幕が開いた様な気持ちが滲んでいます。鳥うたい、蝶舞い花開く。白衣の回りの山々も緑に衣替えし春爛漫の光景が生まれます。（安　居）

入選　頃も良く　天に羽搏け巣立鳥

鳥居本町　寺村美恵

（評）　長い学び舎をあとにして、今社会への第一歩を踏み出そうとしている。希望あふるる中にも又不安も抱いている。併しこれからの前途は自分の器量が大きく左右する。自分の世界を開いて行くところが明るい未来が開けて来る。限界を越えた未来へ向かって。（安　居）

佳作　ひらり舞う　伝統を継ぐ初舞台

田附町　大谷みつ子

佳作　頃も良く　一念発起門くぐる

東沼波町　木原　正

佳作　ひらり舞う　女は時代の蝶になる

彦富町　池田光雄

佳作　頃も良く　花満開の城に着く

米原市　日比陽子

佳作　値ぶみする　両者納得その安堵

甲田町　平田政江

佳作　頃も良く　四季の移ろい受けて生く

新海町　今堀敏子

佳作　頃も良く　大師と歩く遍路杖

米原市　西尾辰之

佳作　値ぶみする　凡人の子の通信簿

長浜市　勝木岩松

佳作　ひらり舞う　正に綾鷹美しく

新海町　野田ヒサ子

佳作　頃も良く　樽にねかせた赤ワイン
田附町　佐々木　トミ

佳作　値ぶみする　断捨離決めてまた揺らぐ
日夏町　大菅　恵美子

佳作　ひらり舞う　綿毛が目指す新天地
後三条町　吉原　初美

佳作　頃も良く　夕餉に春を足す小鉢
外町　筑田　豊子

佳作　値ぶみする　我が人生を振り返り
地蔵町　佐古　徳子

佳作　ひらり舞う　野にたつ陽炎蝶二匹
普光寺町　河合　仙治

佳作　頃も良く　ラストスパートする余力
東近江市　河﨑　章

佳作　値ぶみする　他人の価値に縛られず
芹川町　杉浦　綾香

佳作　ひらり舞う　知足の池に蓮の華葩
新海町　辻　一男

佳作　ひらり舞う　梅雨空上り初つばめ
犬上郡豊郷町　北川　乙比古

佳作　頃も良く　愛を育む住き縁
愛知郡愛荘町　青木　郁子

佳作　値ぶみする　我が人生の幸福を
鳥居本町　北川　夏子

佳作　頃も良く　ビワイチ巡る朝の風
外町　筑田　弘正

佳作　ひらり舞う　蝶が五感を揺り起こす
正法寺町　金子　君子

佳作　ひらり舞う　長い黒髪風光る
清崎町　柳本　和子

佳作　値ぶみする　リベンジ誓う子の決意
稲里町　藤野　千枝子

佳作　値ぶみする　戴き物にお礼込め
西今町　辻　淳一

佳作　頃も良く　チャンスを手にし進みゆく
岡町　宮地　正子

《総評》

今年の冠句部門は「頃も良く」「ひらり舞う」「値ぶみする」の三題で、昨年よりも応募数は減少し一九五句でした。年々に減少の流れ、少し寂しい気がします。毎日の生活の中に文学的な視点を持っていると、心にうるおいが生まれるのではないかと思います。季節の変化、時の流れの中に情緒が生まれ素晴らしい視点の作品を詠うことができるのではないでしょうか。

応募時期の季節は早春であるので、春の桜、椿、梅の花を詠んだ句や、雲の流れ、風のざわめき、陽の照り等を冠題に結び付けた句や、新型コロナウイルスを詠んだ句も見られました。

年令や職業など皆さんの生活の中で置かれている位置で、様々な視点が生まれ、そこに個人の感覚を加え、選択された言葉で紡いだ句というものは現代の盲点を突いたそんな句が生まれることがあります。

来年度は応募いただく方が増加して下さることを願っております。

安居尚文

選者吟

ひらり舞う　夢泡沫の譜となりて

柴田遊児

頃も良く　朝露濡れし茄子穫る

西村吟雪

値ぶみする　心の揺れ浅からず

安居尚文